

# 色板排べに就て

藤五代策

前回に色のことに付きてお話を申しあげました。色の或ものは日中と夜間或は燈火の種類各人の視方の如何によつて色の見え方の異なるものがあります。例へば黄色は夜間には白く見え葡萄色は紫に見えるのであります。彼の電氣燈の光は凡ての色を青白く見する傾があり、併し是等の迷ひは凡ての人の迷ひであるから別に咎むる要もない。多くの子供の中には、色めくらと云ふがあり、まして色と色との區別のつかぬものがあります。例へば青と緑との區別がつかず、赤と朱との見別のできぬ子供があります。是等の子供には、是色の職別を教へておかねばならぬのであります。

尚色と同時に教へておかねばならぬことは、形のとであり、元來我邦の子供の形に對する見方と名稱とが甚不確である例へば、正三角形も二等邊

三角形或は不等邊三角形も同じく單に三角形と云つて居る。又正圓も橢圓又は印形も同じく之を圓と云つてをる。が夫等のことは子供るときから確實に其の見方と呼び方とを教へておかねばならぬので

十六

その形と色とを正しく見て正しく呼び得ますには、色板排べによるのが一番よいのです。色板排べのことは彼のフレネルの恩物中にもあつたが、私に別一新案があります。から次に紹介申しませう。

## (一) 色板の製作法

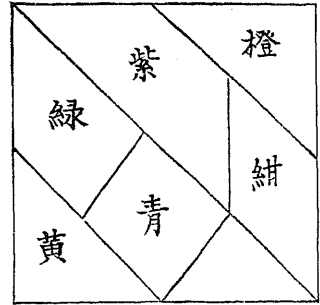
色板は厚紙に色紙を貼附して種々なる幾何形體又は棒状のものを切りとり、之を一括せんため、に箱又は紙袋に納めたものであります。

## (二) 色板の種類

### 第一種の色板



板色の種二第



七枚

(三) 色板排べの方法

色板排べは右の第一種第二種の色板を以て之を分解し或は組合して種々の幾何形又は人工物の状を模擬せしむるものでありますこれが教授します際には主として簡短なる幾何形と色の各種や其の觀念を與へて工夫力や美感を養ふのであります

(四) 色板の取扱ひ方

色板は多數の種類を一括して箱又は紙袋に納めてあるから其の取扱ひに注意せねば非常に亂雑になつて往々紛失することがあるのですされば

色板の出入のときは一定の順序を立てきまりよく机上なり又は板上に排列せしむる習慣を養はねばなりません色板排べで整頓せしむる習慣がついたら其の良習慣は凡ての仕事の上に整頓する様になるから是非此の習慣を養つて貰いたいのであります

次に色板を排列するには机上なり又は板上に基盤目の様な野を引いたものならば大に望ましいのです

色板は先づ之を排べます前に色板の色の名稱と單形の名稱とを問答して次に如何なるものを排ぶるかをよく考案せしめおいてからポツ／＼と静かに排列せしむるものであります又その排列したものに付ては色の配合のことと形の恰好とを正さしめて母姉たるの人はその不恰好の處を懇に指摘して評を下すのであります且又一且排列したものは之を取崩すにも無茶にせず且排列した順の反對に最後のものから取こわすので

あります

色板排べは其の排列の方法は極めて容易であるけれども一の形として久しく保存し持動かすことが出来ぬのは如何にも物足らぬ様にあるけれども改作自在に幾度にも排列することの出来るのは本種の特長であります

又排列したる形は鉛筆や石筆にて見取圖を描かしてめて圖書と連絡するときは亦一種特別の興味を添へるのであります

(五)色板排べの種類 口繪に三四の例の示して置きました。

●拾五年間の進歩 進歩の著しい中にも近き十五年間に於ける日本

の進歩は殊に著しい、不確な統計ではあるけれど最近の調査に依れば▲人口は明治二十三年には四千四十五萬三千四百六十一人であつたか、十五年後の三十七年には四千七百二十一萬五千六百三十人に達し、殆んど七百萬近き増加をなして居る、人口の増減が國運の消長に關係するとすれば、十五年間に七百萬近くの増殖を見たる我日本の國運が前途甚だ多望であるとは言ふまでもない又國力の進歩を下する標準とも言べき▲鐵道は明治二十四年には官私を通じて既成線の延長二千七百十七哩に過ぎなかつたが、十五年後の三十八年にイ五千十三哩の上に出で、恰も三倍の延長に爲つて居る▲船舶は汽船、帆船を通じて明治二十四年には一千四百四十二隻、此の噸數十四萬五千七百二十五噸に過ぎなかつたが、十五年後の三十八年には六千二百二十隻、此の噸數百二十七萬三千四百六十七噸の多きに達し、雙數に於て四倍以上噸數に於て殆んど十倍に近き増加を示して居る(萬朝報)

\* \* \* \* \*